

第3 基本目標と施策の方向性

1 基本目標

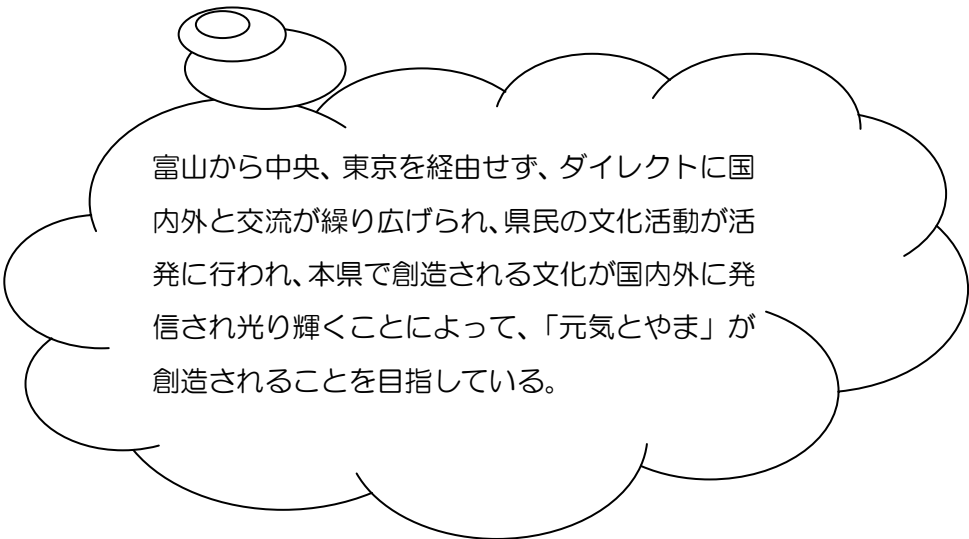
今後、以下の3つの目標を大きな柱として文化振興を進め、『富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造』を目指す。

(1) 県民が幅広く文化の鑑賞や新しい文化の創造を楽しみ、文化を通じた交流や文化活動に参加することを拡大していく。特に、次世代を担う子どもたちが、文化に親しむことを促進する。

(2) 質の高い文化を創造し、世界に発信する。これにより、富山県の文化のレベルアップを図るとともに、県民の誇りとなる文化面での「とやまブランド」を確立する。

(3) 文化は、まちづくりや経済活動など地域社会に幅広く関わってくるものであり、にぎわいづくり、産業振興、観光との連携など、社会の各分野で文化と連携して、総合的な文化振興に関する施策を展開する。

富山から世界に、人と文化の輝く「元気とやま」の創造



富山から中央、東京を経由せず、ダイレクトに国内外と交流が繰り広げられ、県民の文化活動が活発に行われ、本県で創造される文化が国内外に発信され光り輝くことによって、「元気とやま」が創造されることを目指している。

2 文化の担い手と県の役割

文化活動の担い手は、県民である。美術・音楽・演劇・舞踊など、文化を新しく創造する局面では、主に人間の手、足、口など身体を用いて、個人又はグループの独創的な創造力に基づき、新しい作品が創作され、表現される。これを鑑賞する局面では、人々は、見て、聞いて、楽しみ、雰囲気を楽しむ、感動を覚える。このように、文化活動は極めて人間的な活動であることから、県民一人一人が主人公である。また、文化活動を組織的に行っていく場合、文化団体、ボランティア、企業など様々な主体が、自主的に参加し、連携を図りながら、文化振興を図ることが大切である。

県の役割は、県民が文化を鑑賞、創造、交流するための機会を確保し、文化活動に参加する団体やボランティアなどの様々な主体により、文化活動が活発に行われ、質の高い文化の創造・発信が行われるよう支援するとともに、観光、まちづくり、産業など他分野との連携を図るコーディネーターとして、その条件整備や環境づくりに努めることである。

このような役割を的確に果たしていくためには、文化行政の推進に向け、行政の体制のあり方についても見直していく必要がある。県では、芸術文化の振興に係る行政の充実と一元化を図るため、平成18年4月から、生活環境部の名称を「生活環境文化部」に変更するとともに、同部に「文化振興課」を設置し、従来の生活文化課文化振興班と教育委員会文化財課振興係（美術館、博物館等を所管）の事務を移管したところである。今後、さらに文化行政の総合化について検討していく必要がある。

3 文化振興の3つの視点

上記の基本目標を踏まえ、県が文化振興の施策を展開する際に、次の3つの視点を中心に据えながら取り組んでいくこととする。

～視点①～

『文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実』

文化活動の担い手は県民一人一人であり、文化振興を図るには、文化活動の様々な局面に関わる人材の育成が重要である。

文化活動は、作品を創造する活動と、作品を鑑賞する活動の二局面があり、また、それらの活動を支援する活動によって成り立っている。

このため、①文化を創造する人材、②文化を鑑賞する人材、③文化を支援する人材を

育成し、県民が幅広く文化活動に参画し、文化に親しむことを促進する。

～視点②～

『環日本海・アジア新時代の到来などグローバル化への対応』

近年、中国・ロシアをはじめとした新興国が著しく興隆し、本県においても、これらの国との経済交流の活発化、定期航路の充実など、ここ数年で大きな変化が見られ、本格的な「環日本海・アジアの時代」の到来など、今後一層のグローバル化の進展が見込まれる。

これからは、成長著しい環日本海・アジア地域の成長エネルギーを取り込むとともに、国際交流円滑化の基盤となる文化交流の深化により、富山県が誇る質の高い文化の世界への発信と交流を推進し、グローバル化に対応する。

～視点③～

『ふるさとへの誇りや愛着の涵養』

グローバル化や情報化が一層進展するなか、ふるさとの文化、祭り、町並み、景観等は、それ自体が独自の価値を持つだけでなく、県民の地域への誇りと愛着を深め、心の拠り所となり、コミュニティの一体感を強めるものである。このことから、県民がふるさとの文化を知り、理解を深めることにより、ふるさとへの誇りと愛着を育む。

4 施策の方向性

上記の基本目標にある3つの大きな柱に沿って、今後、県が行う文化振興の施策の方向性は、以下のとおりである。

(1) 文化活動への幅広い県民の参加

ア 文化施設での特色ある運営、県民の多彩な活動の展開、巡回展示・出前公演などによる県民への働きかけ等を通じて、県民が優れた文化を鑑賞する機会の充実を図る。

イ 県民の多彩な練習や発表を行う場を充実し、指導者を確保するなど、新しい文化の創造への取組みを支援する。

ウ 文化ボランティアの養成、地域のにぎわいづくりの促進など、文化を通じた様々な

交流や文化活動への参加の拡大を図る。

- エ 子どもの頃から優れた文化に触れ親しむ機会を提供し、社会教育、学校教育の両面から文化に関する指導・教育を充実させるなど、次世代を担う子どもたちの文化活動の充実を図るとともに、若手芸術家の育成に努める。

(2) 質の高い文化の創造と世界への発信

- ア 世界に誇れる、優れた舞台芸術の創造と人材育成の拠点づくりを進め、世界への発信を促進し、アジアを代表する舞台芸術の拠点づくりを推進する。
- イ 富山県の特色ある国際的な文化振興事業の展開と発信を推進する。
- ウ 地域に根ざした歴史や伝統文化、美しい景観など、文化の宝ものについて県民自らが再評価し、県民が誇れる富山固有の文化として世界に発信する。
- エ 情報通信等の最先端の技術を活用した文化の創造、富山の文化の魅力の国内外への発信を推進する。

(3) 文化と他分野との連携

- ア 多様な観光ニーズを踏まえながら、本県の文化遺産、伝統芸能・伝統工芸や本県で創造された現代芸術、特産品、景観等の様々な資源をさらに発掘・活用し、文化振興と観光振興の連携を図る。
- イ 地元の文化資源の再発見、再評価などを通じた地域の魅力を高める取組みを支援し、住民や来訪者が活発に交流するにぎわいのあるまち（地域）づくりを推進する。
- ウ 美しい自然環境と多彩な伝統・文化に育まれた「とやまの食」の魅力の国内外への発信を推進する。
- エ 多彩な富山県の文化を基盤とした商品・産業の創出を推進し、最先端のものづくり文化を次世代に継承するなど、文化を活かした産業の振興を図る。

5 基本目標の達成に向けて

県民の視点に立って、施策の実施によってどのような成果がもたらされたかを明確にするため、成果を重視した計画とする。このため、基本目標を具体的にイメージするための参考となる「県民参考指標」を設定するとともに、計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルによって、計画の実効性を確保する。

また、10年間とする計画の期間中でも、前期5年間で重点的に取り組む施策を明確にする。

【県民参考指標】

指標及び指標の説明	概ね5年前	現況	平成28年度、平成33年度の姿		
			H28年度	H33年度	(目標設定の考え方)
芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合 県政世論調査において「音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会」について「充足している」と答える人の割合	23.6% (H18)	19.5% (H23)	増加させる	増加させる	県民の意識に関わる数値のため、数値目標の設定が困難であることから、「充足されていると思う県民の割合の増加」を目標とする。
県立文化ホールの利用率 県民会館、教育文化会館、高岡文化ホール、新川文化ホール、県民小劇場におけるホールの利用率	60.4% (H17)	64.2% (H21)	66.0%	70.0%	H28は、直近5年間(H17からH21)での最高値(H20:65.4%)を上回ることを目指す。 H33は、さらに、H17からH21までの増加分相当の伸び(4%増)を目指す。
文化に関する国際交流事業(派遣、招聘別) 県・市町村・学校・団体等の国際交流事業数	派遣13件 招聘14件 (H17)	派遣13件 招聘16件 (H21)	各20件	各22件	特色ある国際文化交流を積極的に支援することにより、H28は、派遣・招聘ともに20件をめざす H33は、さらに、派遣・招聘ともに、H17からH21までの招聘の増加分相当の伸び(2件増)を目指す。
地域文化に係るボランティア活動者数 指定文化財など地域の文化資源を対象として保存・伝承、解説案内等の活動を継続的に実施している団体の活動者数	13,200人 (H17)	13,430人 (H22)	13,750人	14,000人	地域文化に係るボランティアグループ等への県民参加の拡大傾向を踏まえ、年平均50人程度の増加を目指す。

【前期5年間で重点的に取り組む施策】

本計画の期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とし、本県の文化振興の中長期ビジョンとして策定し、基本目標のもと、各種施策を展開するものであるが、時代潮流等を勘案し、計画期間の前期5年間で重点的に取り組む施策を明確にする。

○重点施策選定のポイント

文化振興の3つの視点を基に強力に推進すべき施策及び前期計画期間中の本県を取り巻く状況変化を見据え、文化を活かした、富山ならではの魅力創出につながる施策を選定することとする。

・文化振興の視点

- ①「文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実」
- ②「環日本海・アジア新時代の到来などグローバル化への対応」
- ③「ふるさとへの誇りや愛着の涵養」

・前期計画期間中の本県を取り巻く状況変化

- ①間近に迫った北陸新幹線の開業、高速道路の整備
- ②伏木富山港の機能充実
- ③富山空港の利便性の向上

⇒陸・海・空の交流基盤の整備充実に対応するための、とやまの魅力向上と交流人口の拡大に向けた取り組みが必要

○重点施策

1. アジアをリードする文化交流拠点としての発展に向けた創造と発信

- ・利賀芸術公園を拠点とした国際的な舞台芸術の交流、アジア諸国の舞台芸術機関との連携による共同制作、人材育成事業、青少年への普及・教育事業等の推進
- ・アジアを代表する舞台芸術拠点としての「TOGA」ブランドの世界への発信
- ・世界の子どもたちが参加するとやま世界こども舞台芸術祭、世界ポスタートリエンナーレトヤマなど特色ある国際的な芸術文化振興事業の充実と発信

2. 越中万葉以来の「ふるさと文学」の魅力の再認識及び、その継承・発展

- ・越中万葉から近・現代までの富山県ゆかりの文学の魅力の紹介
- ・ふるさと文学に親しみ・学ぶ機会や、深く調べ・発表し、創作する場の提供
- ・散逸する恐れのある富山ゆかりの貴重な文学資料の収集・保管

3. 文化を活かした富山ならではの魅力創出

- ・県内の優れた歴史・文化資産の世界遺産登録に向けた活動を通じた富山の魅力の再発見、全国への情報の発信
- ・歴史的建造物、伝統行事、工芸、食文化など歴史的・文化的資源を活かした個性あふれるまちづくりへの支援
- ・「とやま未来遺産」をはじめとする地域の資源を活かし、さらに魅力を磨き上げる地域活動への支援